



いさり火

学校だより【第2号】
小浜市立西津小学校
令和6年4月27日

学校 HP!
今年度も
学校の様子を
どんどんお知らせします!



今年度の本校の『学校教育目標』は、昨年に引き続き下記のとおりです。

やさしく かしく たくましく 西津を愛する子
～自ら学び、共に伸びる子の育成～

やさしく
共に伸びる子

かしく
自ら学ぶ子

たくましく
チャレンジする子

西津を愛する
ふるさと
大好きっ子

この『学校教育目標』を設定するにあたり、次の点に留意しました。

- 教育の目的である子ども一人一人の人格を形成するため、小浜市の学校教育方針を踏まえ、児童・保護者・教職員及び地域とのつながりを基盤とする。
- 予測困難なこれからの時代を切り拓くために、児童一人一人の感じる力・考える力・行動する力を磨き、「知・徳・体」をバランスよく向上させ、生まれ育った郷土を愛し、自立した一人の人間としての児童を育成する。

さらに、『学校教育目標』を実現していくために、具体的に次のような学校づくりに取り組んでいきます。

① 児童一人一人の生きがいを育み、学ぶ喜びのある学校

児童、保護者、教職員の思いや願いをしっかりと受け止め、授業、学校行事、縦割り活動などを通して、互いに認め合い、励まし合い、支え合う良好な人間関係を築く。

- ・生徒指導の3機能（「子どもに自己決定の場を与える」「子どもに自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」）が行き届いた学校・学級経営。
- ・多様性と様々な価値観を認め合い、協働して困難な課題が克服できる学校。
- ・自分の良さに気づき、自分の可能性が追究できる学校。
- ・自分の居場所が確保され、安心して生活できる学校。

② 教職員が子どもの成長にやりがいを感じ、勤務したことを誇りに思う学校

協働し、学び続ける教職員集団を組織し、「児童が自ら学ぼうとする授業」を目指して授業研究を深めるとともに、手をかけすぎずに目をかけて、児童が主役となる教育活動を展開する。

- ・大きな愛情をもって子供に寄り添う教師
- ・学び続ける教師
- ・同僚性を高め、連携・協働できる教師
- ・範を示す教師

③ 保護者や地域の方々に信頼され、愛される学校

地域之力、家庭之力を積極的に取り入れるとともに、学校からも多くのことを発信し、地域のためにできることを提案し実践する中で、地域に貢献できる児童を育てる。また、組織として一致団結し、一人一人の児童に大きな愛情をもって接し、厳しさと優しさの両面から教育のプロとしての使命感と情熱をもって教育活動を推進し、保護者や地域の方から信頼される存在になる。

- ・一人一人のよさが生きる学校
- ・夢や志を育む学校
- ・安心・安全な学校
- ・地域に愛され、支えられる学校

近年はこれまで経験したことのないような変化が起きています。こうした出来事が次々と起こる現代は「**VUCA**」(ブーカ)時代とも呼ばれているようです。

VUCAとは「Volatility:変動性」、「Uncertainty:不確実性」、「Complexity:複雑性」、「Ambiguity:曖昧性」の単語の頭文字をとった造語です。

「不確実性」…将来の見通しを立てることが難しい状況を意味します。

「複雑性」…経済活動を中心としたグローバル化によって、地球規模で起こる課題が顕在化・複雑化していることを意味します。

「曖昧性」…これまでの常識が通じない状態で、問題に対する絶対的な答えがなく、解釈の可能性が複数あることを意味します。

「変動性」…価値観や社会構造の変化、テクノロジーの進化などによって、予測できないほどの大きな変化が起き得ることを意味します。

また、最近では「**教育DX**」(デジタルトランスフォーメーション)という言葉もよく耳にします。教育現場においても「DX」の推進が求められてきています。では、「DX」とはどのような意味なのでしょう。

「DX」…デジタル技術を導入することで人々の生活を改善し、変革させること。

オンライン会議やテレワークなどの普及によって生活様式が変化していくことを受け、文部科学省でもデジタル化推進プランとして「DX」を推進し、これまでにない学びの可能性がもたらされることを期待しています。しかし、「教育DX」とは、単にタブレット等を用いた学習のデジタル化ではなく、IT技術を用いて教育現場を変革していくことです。教職員のアナログの業務をデジタル技術で効率化したり、ITツールを用いた教材でよりよい学習環境を子どもたちに提供したり、時代の変化に合わせて教育現場を改革していくことが求められています。

このように、時代の変化を的確に捉えながら、私たち教職員は教育活動を進めていく必要があります。しかし、学校生活の中では大切にしていきたい部分が多々あります。その中でも特に意識していきたいのが「不易」の部分です。これからの人生を生きていく上で人との関わりの中で必要な力も子どもたちにはしっかり身につけてほしいと思っています。始業式の日、子どもたちには「根っこ」の部分育て鍛えてほしいと話しました。美しく・大きく・たくましい花を咲かせたり実を实らせたりするにはしっかりと「根っこ」が必要ではないかと考えるからです。目標や夢を実現させたり大きな成果を得たりするには、「根っこ」を育て鍛えることに時間をかけるかもしれませんが案外近道なのかもしれませんね。

「**不易と流行**」とは、俳聖松尾芭蕉が「奥の細道」の旅をする中で体得した概念だと言われています。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」というものです。「不易」は、いくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないもの、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくものという意味です。これをしっかり位置づけた学校経営を進めていきたいと考えています。

今年1年間、教職員一同精一杯勤めさせていただきますので、保護者の皆様・地域の皆様には、本校が目指そうとしています方向性をご理解いただき、共に手を携えながら、未来を担う・西津の宝である子どもたちの教育にご支援いただきますようお願い申し上げます。

なお、今年度の「学校経営方針」および「スクールプラン」は、HP内の「学校基本情報」に保存してありますので、是非ご覧ください。